

八代地域リハビリテーション広域支援センター  
令和2年度 地域リハ従事者研修会 報告資料

# 令和2年7月豪雨災害における 災害リハビリテーションおよび 復興リハビリテーション活動報告



独立行政法人 労働者健康安全機構  
熊本労災病院 中央リハビリテーション部  
西田充征 (OT)



# 令和2年7月4日 未明 熊本県県南地域で発生した 豪雨災害 被害状況

## 〈球磨・人吉地域〉

住家被害: 床上浸水 3,755棟、床下浸水 906棟

人的被害: 死傷者数 70人(うち死者 20人)

避難所数: 13か所

避難者数: 1,263人

## 〈芦北水俣〉

住家被害: 全壊 15棟、半壊 12棟、床上浸水 253棟、床下浸水 277棟

人的被害: 死者 13人、行方不明者 3名

避難所数: 5か所

避難者数: 80人

# 被害状況

〈八代（坂本町）〉

住家被害：全壊 522棟、床上浸水 454棟、床下浸水

人の被害：死傷者数 24人（うち死者 4人、行方不明者 1名）

避難所数：3か所

避難者数：最大283人

坂本町人口：3,343名

内訳 男性 1,521名、女性 1,822名

（八代市人口：125,966名）

世帯数：1,633件

坂本町高齢化率：56.8%

（八代市高齢化率：33.5%）

認定者数：455人（認定率 23.7%）

※令和2年3月末時点



発災後

坂本町人口：3,025名

認定者数：482人（認定率 26.9%）

※令和2年12月末時点

# 【 球磨川下流(前川)の変化 (迎町付近) 】



令和2年7月4日 AM8時過ぎ

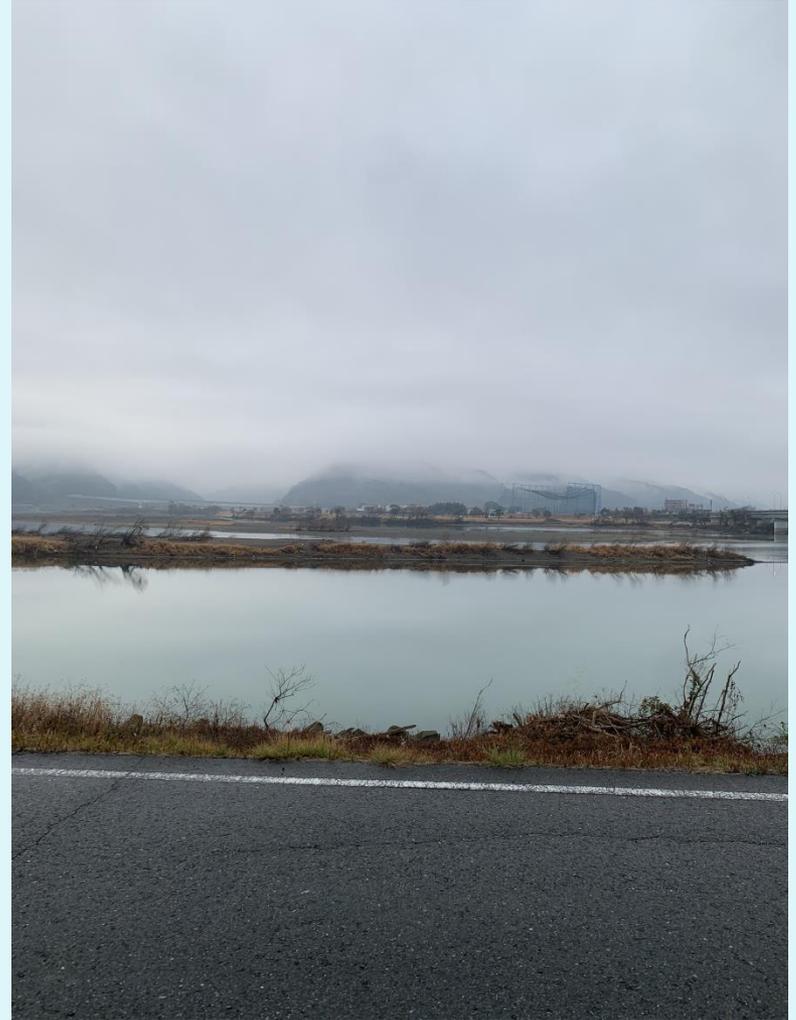


令和3年2月6日 AM7時過ぎ

# 【 球磨川の変化（萩原橋付近） 】



令和2年7月4日 正午過ぎ



令和3年2月6日 AM7時過ぎ

# 地域リハビリテーション広域支援センターとは

## 第8 広域支援センターの業務内容

### 1 地域リハビリテーションの効果的な支援

市町村、リハビリテーション関係者及び介護予防関係者・参加者等を対象に、リハビリテーションの視点から知識・技術を用いて支援を行うことで、地域リハビリテーションの取組みが、自立支援に向けた効果的なものとなるよう以下の支援を行う。

#### (1) 研修会の開催

市町村、リハビリテーション関係者及び介護予防関係者等に対し、高齢者等の地域リハビリテーションに関する研修会を主催する。

#### (2) 相談支援

市町村、リハビリテーション関係者及び介護予防関係者等に対し、スタッフや講師の派遣など人的支援や相談支援を行う。

#### (3) 関係団体・機関等との連絡会議の開催

市町村、地域包括支援センター、医療機関、介護予防事業所等との連携を図るために連絡会議を主催する。

### 2 市町村の地域支援事業等への効果的な支援

市町村等が行う介護予防等事業や地域ケア会議等に対し、スタッフや講師の派遣など人的支援を行う。

### 3 その他、地域リハビリテーションの推進に必要な業務

その他、地域リハビリテーションの推進にあたり、熊本県地域リハビリテーション支援センター事業への協力、県が必要と認める業務を行う。

また、**災害時には市町村及び熊本県災害派遣福祉チーム(熊本DCAT)等と連携し、避難所等での生活不活発病対策などの支援活動に取り組む。**

# 発災からの経過・活動

7月4日（土）	関係機関との情報収集・確認
7月5日（日）	勤務先に待機し、関係機関との情報収集・調整
7月6日（月）	（通常業務と並行して） DMATからの情報収集
7月7日（火）	<ul style="list-style-type: none"><li>・豪雨災害に伴う連携会議（1）</li><li>・関係機関との連絡調整</li></ul>
7月9日（木）	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難所巡回</li><li>・避難所環境アセスメント・助言</li></ul>
7月10日（金）	<ul style="list-style-type: none"><li>・八代地域災害保健医療対策会議（5）</li></ul>
7月11日（土）	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難所巡回・アセスメント</li><li>・関係機関と連絡調整</li><li>・八代地域災害保健医療対策会議出席（6）</li></ul>
7月13日（月）	<ul style="list-style-type: none"><li>・豪雨災害に伴う連携会議（2）</li><li>・避難所巡回</li><li>・八代地域災害保健医療対策会議（7）</li></ul>
7月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難所における生活不活発病のための体操支援 開始</li></ul>
7月16日（木）	<ul style="list-style-type: none"><li>・八代地域災害保健医療対策会議（8）</li></ul>
7月18日（土）	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難所におけるDVTチェック</li></ul>

# 【 避難所支援(内容) 】

- 避難所(八代市総合体育館および千丁コミュニティセンター)のアセスメント
- 避難所における生活不活発予防およびVTE予防等の、二次的健康被害予防目的の運動指導
- 避難所の環境調整



アリーナ入り口の  
環境調整

シャワー室の  
環境調整

集団運動指導

- ・千丁コミュニティセンター: 令和2年8月28日 避難所閉鎖
- ・坂木保口集会所(泉町): 令和2年10月20日 避難所閉鎖
- ・八代市総合体育館 : 令和2年10月25日 避難所閉鎖

# 令和2年7月豪雨災害に伴う 地域リハビリテーション活動体制

7月

8月

9月～3月

令和3年4月～

避難所

仮設住宅

## ★住民主体の介護予防活動につながる支援

- 介護予防に資する運動体操
- 個別訪問による仮設住宅等の環境調整
- 運動機能の評価
- アクティビティプログラムの提供
- 自主グループの育成
- 地域ケア会議等での助言や研修等を通じた活動支援 等

被災地

◆ JRAT  
(球磨)

◆ 熊本県復興  
リハビリテーション  
センター

◆ 八代・芦北・球磨  
広域支援センター  
密着リハセンター

◆ 八代・芦北  
広域支援センター  
密着リハセンター

被災地  
以外

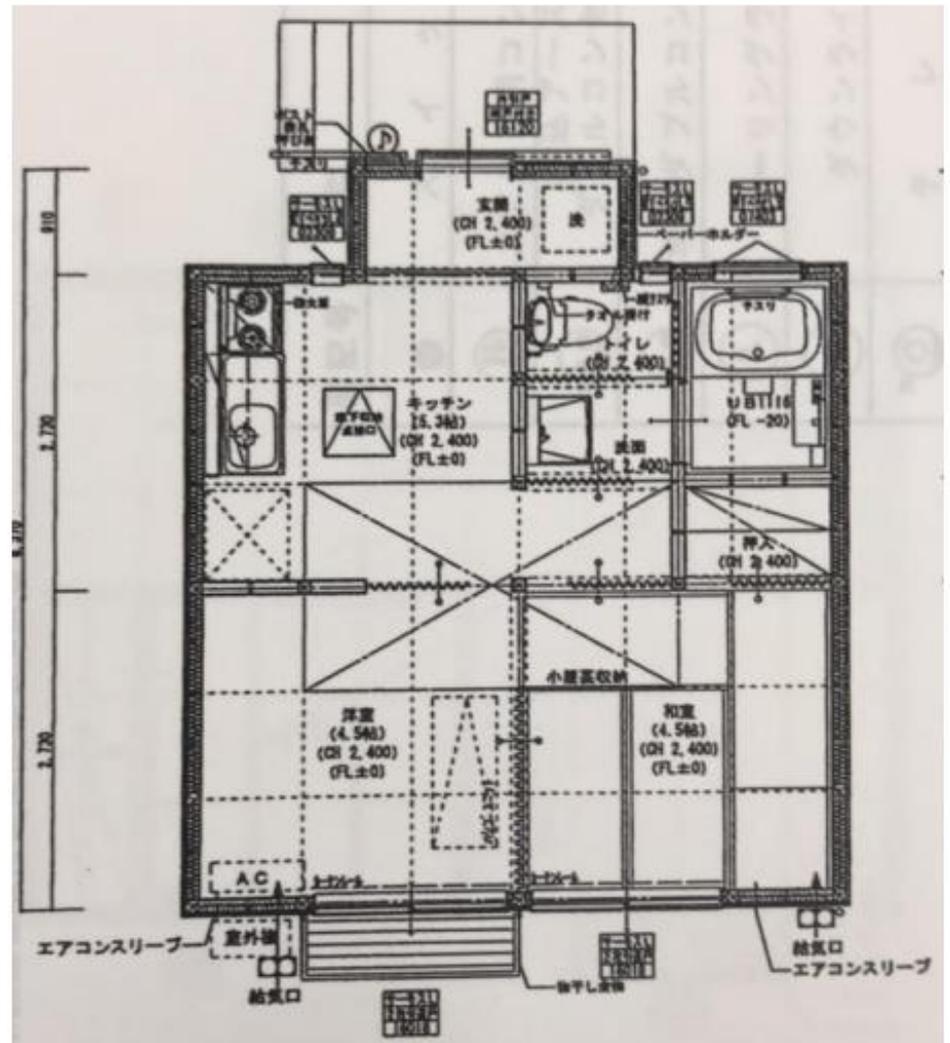
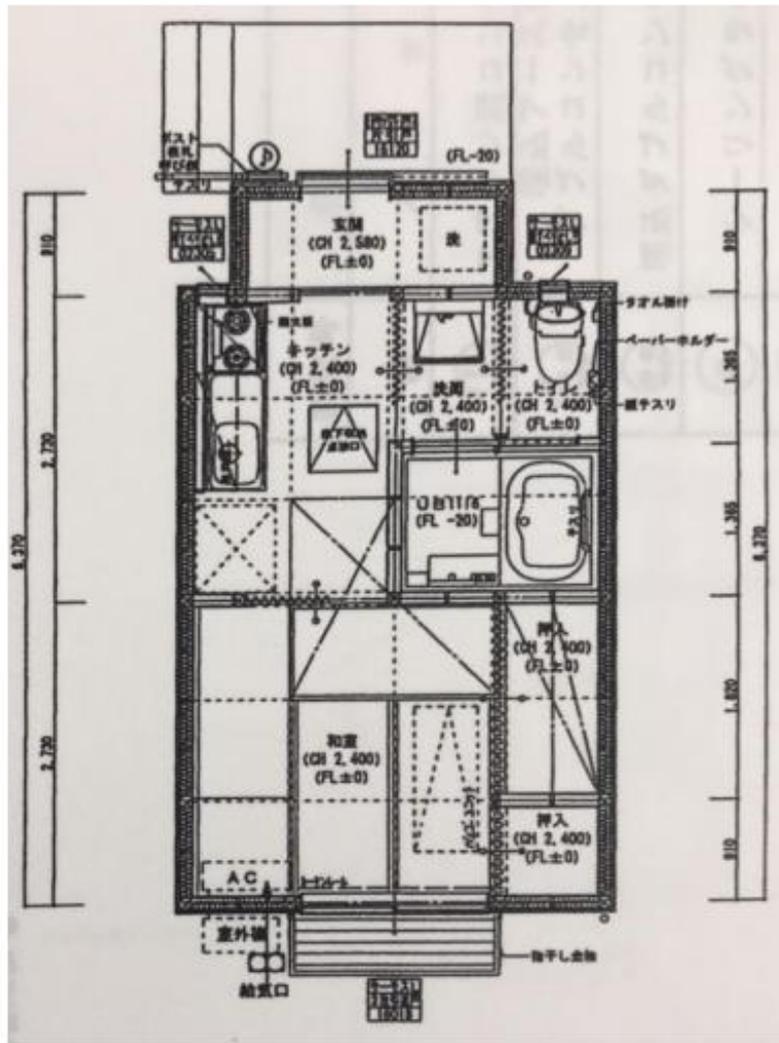
◆ 各圏域内の広域支援センター、密着リハセンター

令和2年7月豪雨災害に伴うリハ専門職等の派遣に関するフロー図

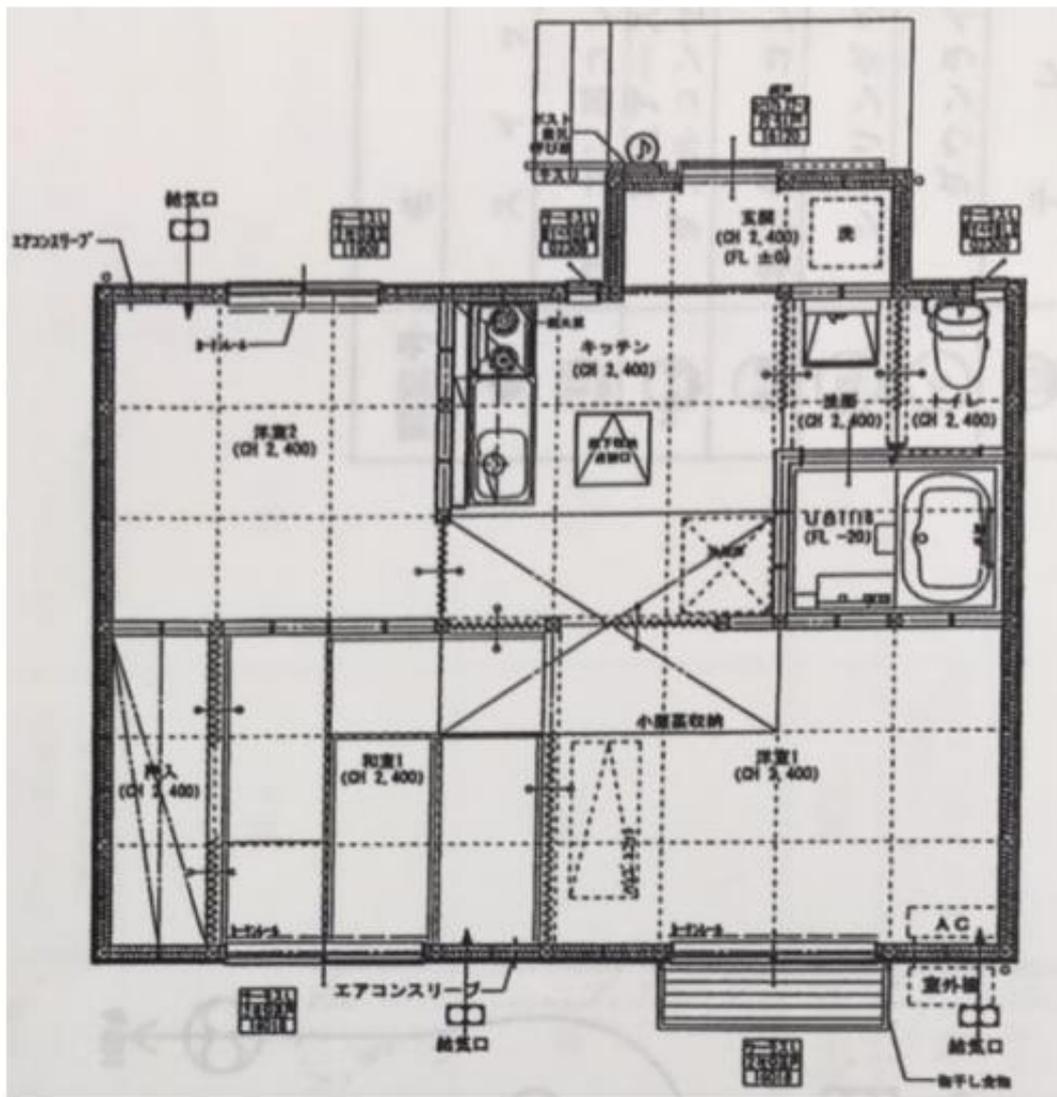
# 復興リハビリテーション体制図(イメージ)



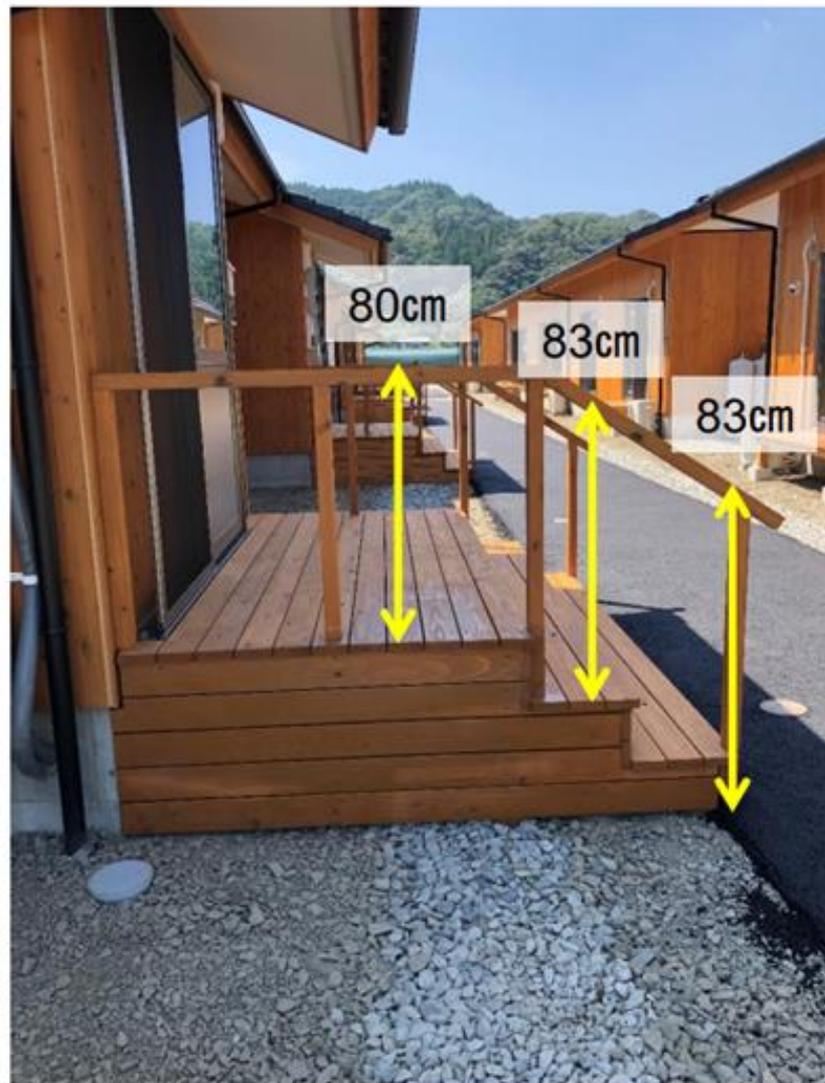
# 仮設住宅平面図(1DK・2DK)



# 仮設住宅平面図(3K)



# 仮設住宅玄関の仕様



# 仮設住宅玄関の仕様(スロープ)



# 仮設住宅縁側の仕様(洗濯物干し)



# 仮設住宅玄関の仕様



# 仮設住宅内装の仕様(和室1・洋室1)



コメント：敷居なし、段差なし  
パーティションを撤去した場合：左120cm 右74cm



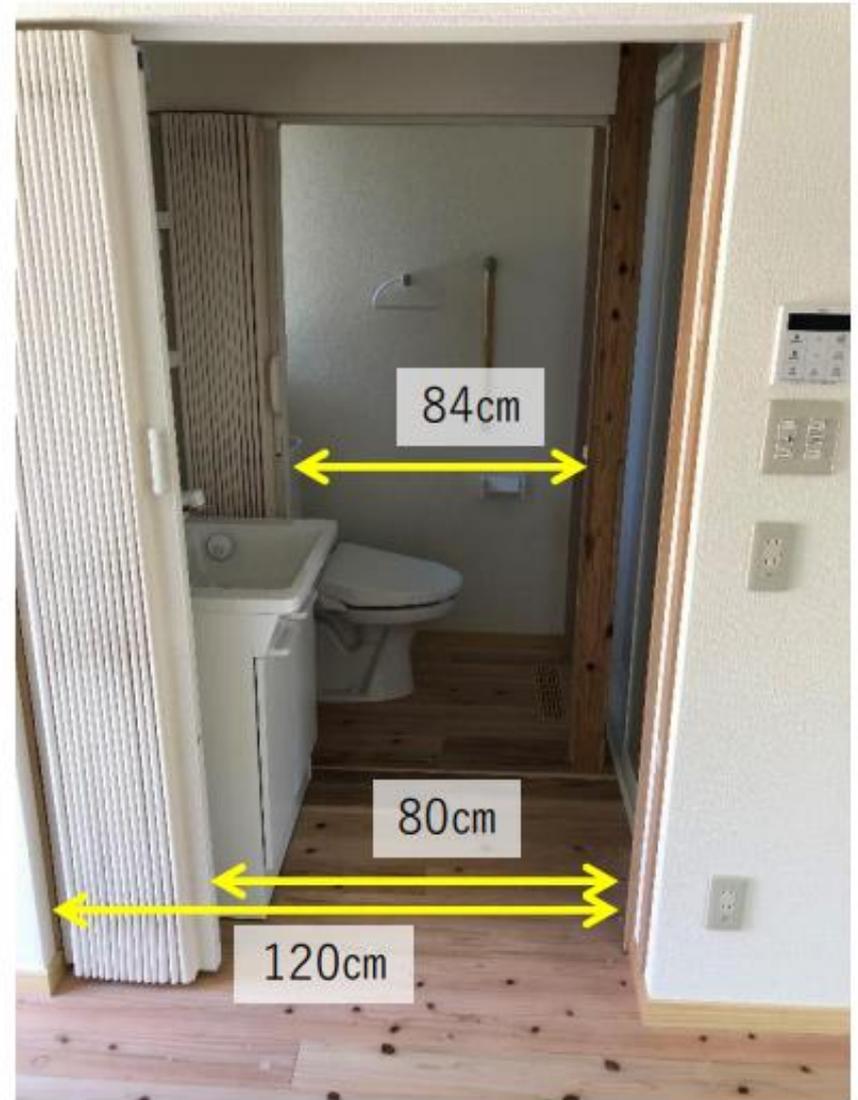
# 仮設住宅内装の仕様(洋室 2)



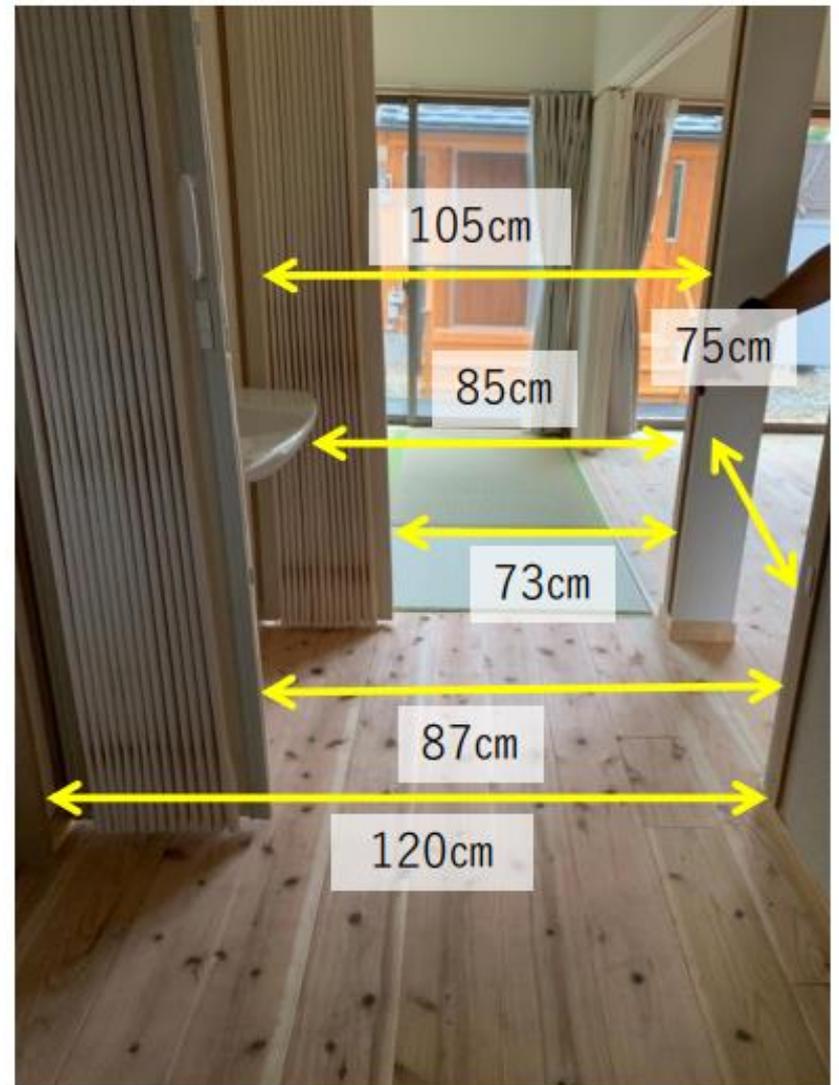
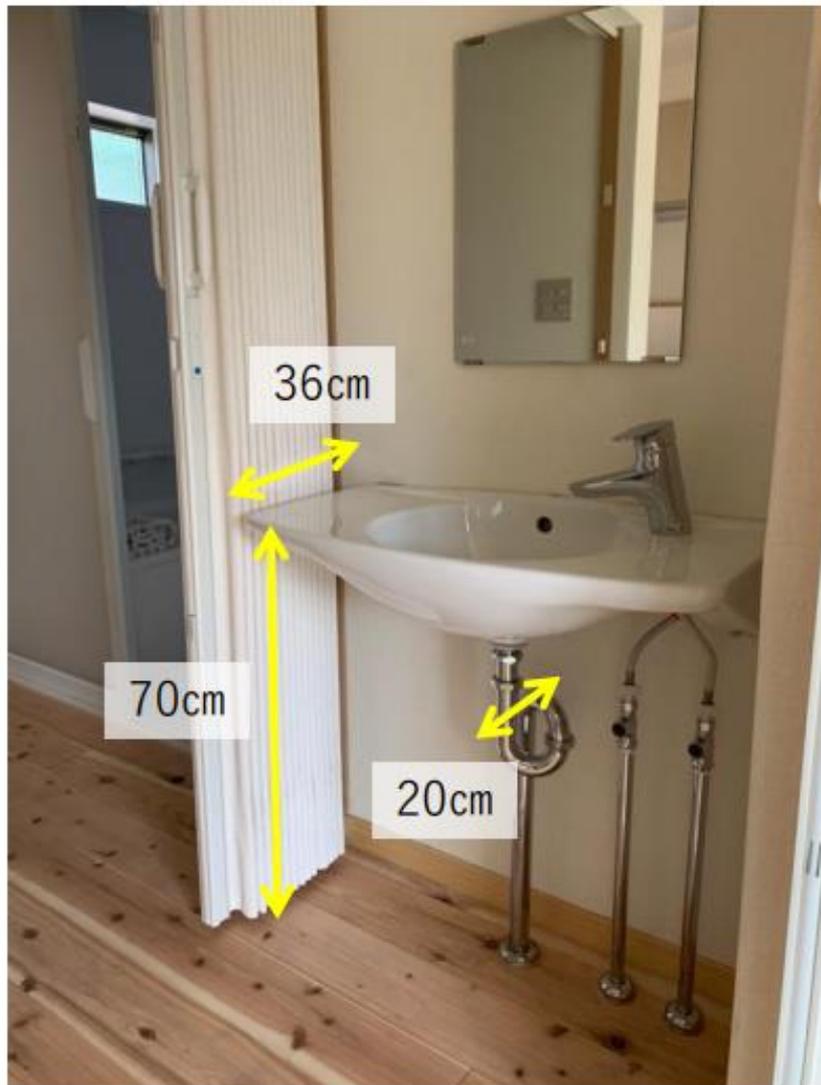
# 仮設住宅内装の仕様(台所)



# 仮設住宅内装の仕様(洗面台・トイレ間口)



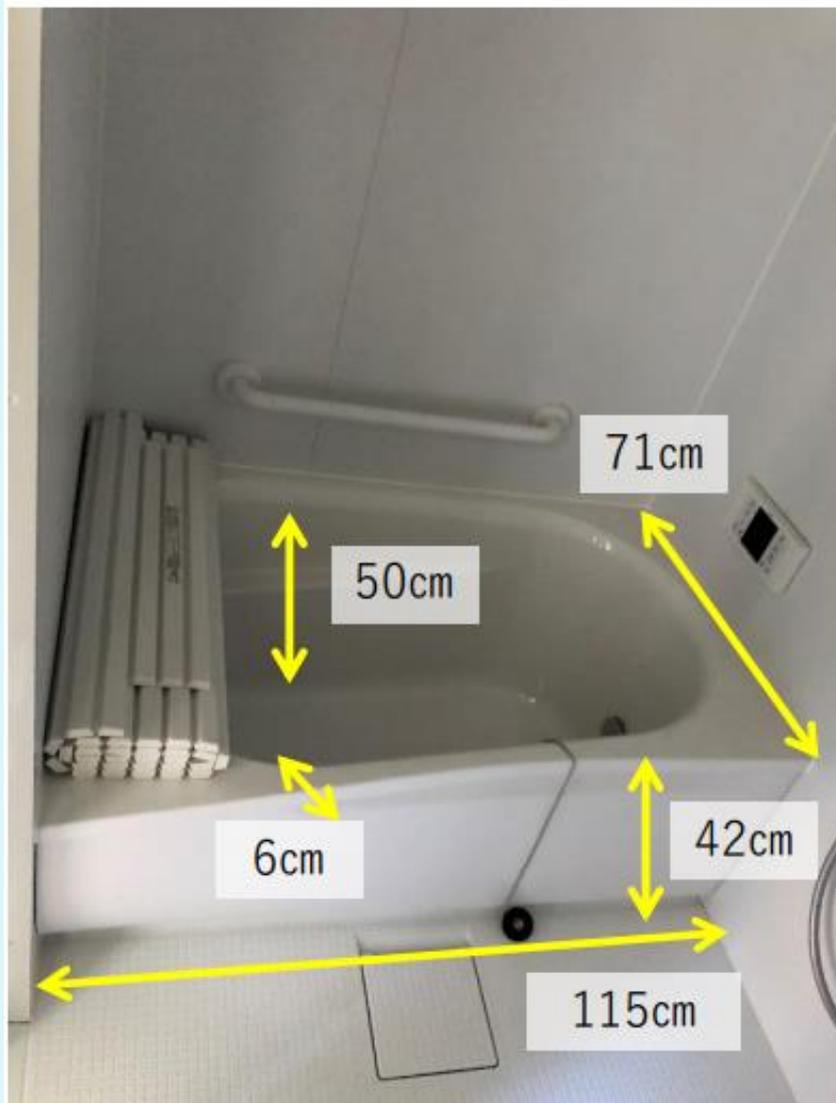
# 仮設住宅内装の仕様(洗面台変更)



# 仮設住宅内装の仕様(トイレ)



# 仮設住宅内装の仕様(浴室)



# 【 仮設住宅支援(内容) 】

- 住民主体の介護予防活動につながる支援
- 介護予防に資する運動体操
- 個別訪問による仮設住宅等の環境調整
- アクティビティプログラムの提供
- 運動機能の評価
- 自主グループの育成
- 地域ケア会議等での助言や研修等を通じた活動支援 等



- ・八代市市民球場仮設団地：令和2年9月11日 入居開始
- ・八代市古閑中町仮設団地：令和2年10月16日 入居開始



# 【 現状 】

## ・市民球場仮設団地

地域密着リハ:八代北部地域医療センターが支援 2回/月

リーダー的存在の方がおられ、自主的にサロンまで開始できている

参加者:8~11名

## ・古閑中町仮設団地

地域密着リハ:八代市医師会立病院、と広域リハにて支援 1回/週

リーダー的存在がいなかったため、自主的活動には至らず

参加者:5~7名

## ・坂本町での在宅被災者

直接的、復興リハは未介入

12月25日に、県南広域本部にて八代市郡医師会・八代市・地域包括支援センター・地域支え合いセンター等が参加して、坂本町の復興リハに関する打ち合わせを行った

課題は多く挙がったが、具体的な対応方法までには至らなかった

# 【 課題 】

## <環境課題>

- ・地域住民は数名いるが、集まっていた公民館が被災し集まる場所がない
- ・集まる公民館はあるが、住民が地域を離れ、集まる人が少ない

## <住民の声>

・以前は、集まって話をしたりしていたが、隣近所が離れ、ちょっとした話もできなくて寂しい

## <支え合いセンターの印象>

- ・坂本町の住まわれている方々は、畑仕事をされたりして活動的な面もみられる反面、上記のような発言もあり、活気が少なく、不活潑な印象がある

## <今後の支援方法>

- ・仮設団地は、自主活動しての差があるが、双方ともコミュニティ形成が出来ている  
⇒現状の支援を継続していく
- ・坂本町の在宅被災者に対しては、現在地域支え合いセンターと支援方法について協議中  
支え合いセンター(生活相談員)の個別訪問に帯同していくこと等を検討中

**令和3年2月9日(火) 地域ケア会議 支援方法検討中**

**御清聴に感謝します**

